

平成30年度 第9回高田区地域協議会 次 第

日時：平成30年12月17日（月）
午後6時30分～

会場：高田公園オーレンプラザ 会議室

1 開会

2 議題等の確認

3 報告

(1) 100年映画館周辺交流広場整備事業について

4 議題

(1) 地域活動支援事業審査採択の基本的なルールについて

5 事務連絡

6 閉会

■今後の予定

1月22日（火）地域協議会（福祉交流プラザ）

2月18日（月）地域協議会（高田公園オーレンプラザ）

高田区地域活動支援事業の審査・採択等のルールに関する意見について

1. 審査・採択の基本的なルールについて

NO.	意見内容
1	<p>◎委員が、所属する事業についての審査について 市民の意見を聞いてみると「委員が役員（特に長）を務める事業に自ら採点し支援の可否を決める」のはちょっとおかしいとの意見が多くあります。</p> <p>●委員が所属する支援事業（応募の場合）の場合、事業団体の三役又は会計経理担当（委員の場合に限る）は審査に加わらないこととする。</p> <p>（※市民の中には、地域委員に立候補するのは、支援事業で補助金を得たいからだと穿った意見を言う市民も多いのです。その意味からも公明正大に審査をしている事を市民にわかって戴く事を示す必要があります。 【山本委員】</p>

2. 募集要項について

NO.	意見内容
1	<p>【高田区の採択方針】 5、住民の交流を活発にする事業に関連し ◎地域コミュニティの活性化が一番大事だと思います。</p> <p>従って、町内会、地域老人会、地域婦人会、地域壮年会、地域子供会などの小さな単位を活発にする事業にも、予算を配分するべく募集を募るべきだと思います。そのことが結果として市域全体の活発活性化につながる筈です。</p> <p>●例えば、予定額の内、2割から3割程度をあらかじめ枠をとって置くなどの措置して置くこと。</p> <p>◎他年度の応募について、自己資金の確保を義務づけるべきだと思います。</p> <p>毎年度ほぼ全額を支援金でまかなう事業は、結果として、支援金がなくなれば自動的に消滅する事業になるので、地域の活発活性化にはつながらないからです。</p> <p>●例えば、年次別の自己資金確保の割合を高くする。</p> <p>●例えば、〇〇年以降は応募出来ない規定をつくる。 【山本委員】</p>
2	<p>1. 過去数年にわたり、同一団体が、ほぼ同一内容の事業を提案し、連続的に採択されている例が数件あります。このような事業については、11月に自治・地域振興課から示された「地域活動支援事業の検証・検討等に基づく見直し方法等」（地域協議会会長会議 資料1）の23ページに示されたような多くの問題点があると考えます。</p> <p>2. このような問題点があることから、平成30年度の採択事業において、ある一定の期間（「4年以上」が適当と思われる）にわたり連続的に採択された団体・事業について、次のような措置を講ずることを提案します：</p> <p>① 該当する団体は、平成31（2019）年度の同一事業の提案書に、団体の自立のための計画（組織強化、資金調達など）についての具体的な計画を含めて提出すること；及び、</p> <p>② 平成31（2019）年度の事業として採択される場合の補助割合（率）は、総事業費の一定程度以下であることを規定し、残る部分の具体的な資金調達計画を提案書に含めること。 【澁市委員】</p>

2. 募集要項について（続き）

NO.	意見内容
3	<p data-bbox="261 304 1043 338"><平成 31 年度地域活動支援事業の募集期間について></p> <p data-bbox="293 349 1455 483">平成 31 年度のゴールデンウィークは 10 連休（4 月 27 日～5 月 6 日）となる見込みであることから、31 年度高田区地域活動支援事業の募集期間を設定する際は、それらを配慮した期間設定の検討が必要になるのではないか。</p> <p data-bbox="1241 495 1401 528" style="text-align: right;">【西山会長】</p>

平成30年度提案を基準とした複数年提案団体一覧

高田区地域活動支援事業
単位：千円（千円未満四捨五入）

団体名	事業名（平成30年度事業名）	過去5年間（上段は「総事業費」、下段は「補助金額」）					総事業費A （5年間計）	補助金額B （5年間計）	補助率B/A （5年間計）	備考
		平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度				
1 青田川を愛する会	青田川桜保存と河川学習事業	1,111	1,121	1,437	1,466	1,470	6,605	6,366	96.3	
		1,060	1,050	1,370	1,434	1,452				
2 お馬出しプロジェクト	お馬出しプロジェクト事業	818	919	858	1,010	1,253	4,858	4,330	89.1	
		720	820	780	910	1,100				
3 寺町まちづくり協議会	第7回寺町まちづくりフェスタを中心としたまちづくり事業	893	905	1,293	931	1,287	5,309	5,169	97.3	
		870	881	1,270	910	1,238				
4 南三世代交流プラザ運営協議会	雁木通りまつり 音楽・仮装大会事業	1,064	1,085	1,005	886	802	4,842	4,580	94.5	
		970	1,050	920	850	790				
5 特定非営利活動法人街なみ Focus	地域資源を活かした高田まちづくり事業	1,167	856	953	605	498	4,079	4,077	99.9	
		1,166	856	952	605	498				
6 NEO 浄興寺プロジェクト （旧浄興寺手づくり市実行委員会）	NEO 浄興寺プロジェクト事業 （旧浄興寺手づくり市事業）	1,098	1,267	1,084	605	—	4,054	3,450	85.1	
		950	1,150	900	450	—				
7 松平忠輝公と五郎八姫の会	松平忠輝公と五郎八姫の会活動事業	414	238	—	441	715	1,808	1,805	99.8	
		413	237	—	440	715				
8 浄興寺大門通りまちづくり協議会	浄興寺大門通り「花の小径」事業	101	104	101	101	133	540	532	98.5	
		100	100	100	100	132				
9 高田区北部振興会	北部地域の文化・賑わいを創出する事業	1,414	922	836	495	260	3,927	2,450	62.3	
		800	700	600	350	0（不採択）				
10 本町6丁目町内会	高田世界館・高田小町美化緑化運動事業	191	193	363	—	—	747	645	86.3	
		170	173	302	—	—				
11 高田文化協会	高田の文化・文学・文芸を継承する事業	652	310	532	—	—	1,494	956	63.9	
		652	304	0（不採択）	—	—				
12 NPO 法人高田瞽女の文化を 保存・発信する会	高田瞽女の文化発信事業	468	657	890	170	146	2,331	2,170	93.0	
		450	600	850	140	130				
13 ちりつも観光プロジェクト	高田区のみなさんと共に「ハガキを使った地域観光のPR活動」事業	988	811	800	772	604	3,975	3,831	96.3	
		847	810	799	771	604				
14 上越美術協会	上越地域美術文化振興事業並びに高田本町通り活性化事業	260	253	208	190	212	1,123	297	26.4	
		99	99	0（不採択）	99	0（不採択）				
15 越後高田・雁木ねっとわーく	“日本風鈴街道 in 雁木 2018” 事業	823	711	1,089	1,119	953	4,695	3,872	82.4	
		0（不採択）	711	1,089	1,119	953				
16 郷土の誇り継承委員会	忠輝公ねふたとアートによる高田祇園祭のにぎわい創出と郷土愛醸成事業	714	270	—	735	—	1,719	250	14.5	
		0（不採択）	250	—	0（不採択）	—				
17 南本町三丁目まちづくり協議会	ふれあい広場・藤棚整備事業	727	747	902	858	556	3,790	2,980	78.6	
		0（不採択）	730	900	800	550				
18 上越写真連盟	「上越写真フェア」事業	507	568	1,506	1,371	1,047	4,999	2,907	58.1	
		0（不採択）	550	0（不採択）	1,361	996				

（注意）上記「総事業費A」には不採択分を含む。

地域活動支援事業の高田区の審査・採択ルールについて(検証事項)

参考資料

No.	検証事項	現行ルールを変更するかどうかの考え方	協議結果	変更(案)					ルールを変更する場合の決定事項
2	・毎年、同じ事業(同じ団体)が連続して採択を受けることは高田区の課題となるか。	今回のルールの見直しにあたっては、公平性の観点だけでなく、提案団体に対し一定の制限を設けることになるため提案団体の実情も勘案して、慎重に協議する。 ・変更した場合は、基本的に現行ルールに戻さない ・今年度の実績だけでなくこれまでの提案状況を踏まえて協議する ①連続採択によって継続実施し、発展させてきた事業があるか、ないか。 ②補助率の上限などの制限を設けると、資金がないためにこれまで継続してきた活動が実施できない可能性があるか、ないか。 ③高田区として連続採択された事業を制限してもできるだけ多くの事業を採択する必要があるか、ないか。 ④条件を制限することが提案団体の自立につながるかどうか。また、高田区として提案団体の自立を促すための制限が必要かどうか。	<input type="checkbox"/> 現行ルールを変更しない						—
			<input type="checkbox"/> 現行ルールを変更する	補助率の上限を設ける(申請時・実績時) 総事業費(地域活動支援事業の補助対象経費のみ)に対する補助率の上限の設定 ※ルールを変更する場合には、事務局が受付段階で、明確に判断できる基準を決定するための協議が必要となる。2月末までに最終決定が必要。	2-①(案) 【条件】 ・提案事業内容が全く同じ場合(拡大、新規取組がない場合)は連続事業とする。 ※受付での判断が比較的わかりやすい。	【基準年度】 ・平成26年度? ・平成27年度?	【補助率の上限設定】 ・1回目 100% ・2回目 90% ・3回目以降 80%	※実際にそのような事業が存在するか?	<input type="checkbox"/> 条件
				2-②(案) 【条件】 ・提案事業内容の主となる活動が同じ場合(拡大、新規取組含む)は連続事業とする。 ※受付での判断が困難。	【基準年度】 ・平成26年度? ・平成27年度?	【補助率の上限設定】 ・1回目 100% ・2回目 95% ・3回目以降 90%	※受付担当者の判断が補助率に影響してしまう?	<input type="checkbox"/> 基準の年 <input type="checkbox"/> 補助率の上限設定(申請時・実績時)	
	2-③(案) 【条件】 ・提案団体名が同じ場合は連続事業とする。 ※受付の判断がしやすいものの、事業内容を考慮できない。	【基準年度】 ・平成26年度? ・平成27年度?	【補助率の上限設定】 ・1回目 100% ・2回目 95% ・3回目以降 90%	※厳しい制限になるため、事業の継続が困難になる?					

※平成26年度 第13回高田区地域協議会(H27.1.19) 資料No.3から一部抜粋

平成 30 年 12 月 17 日
企 画 政 策 課

100 年映画館周辺交流広場について（報告）

1 経過

- ・平成 28 年 8 月 地域再生計画「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』」の認定
- ・平成 29 年 9 月 「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』事業推進計画」の作成
- ・平成 30 年 4 月 交流広場整備に係る用地取得費等の予算措置

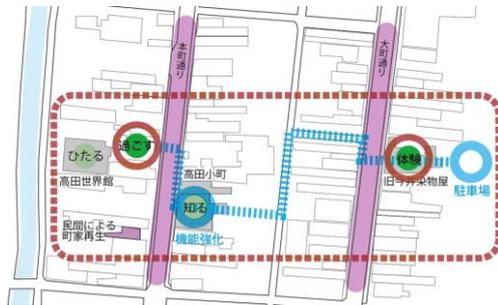
2 事業の方向性

城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』事業推進計画（抜粋）

○高田の歴史・文化を楽しめる魅力的な「目的地」づくり

市民や来訪者が高田の歴史・文化を感じながら、「過ごす」「体験する」の機能を新たに創出し、高田市街地に訪れるきっかけとなる魅力的な目的地を形成する。

（取組 1）高田世界館周辺での「たまり場」の整備



<街なか回遊観光の拠点エリア>



<ポケットパーク的な利用のイメージ>

3 事業の目的

高田小町周辺エリアの拠点性を高め、日常的な来訪を促進するとともに、市民や映画館利用者等による一体的な交流・賑わいを創出するため、交流広場の設置を計画しているもの。

4 事業の位置

上越市本町六丁目地内（約 330 m²）

5 今後の予定

- ・用地取得
- ・活用・整備・運営方法の検討
- ・設計
- ・整備工事



地域再生計画 『城下町高田の歴史・文化をいかした「街の再生」』

- 歴史的市街地であり、都市機能が集積する城下町高田において、現在20余りの市民団体が歴史・文化をいかしたまちづくり活動を実施するとともに、特徴的な2つの100年建築(映画館、料亭)の魅力が見直されるなど、まちづくり機運の高まりが見られる。
- 市では、平成28年8月に地域再生計画の認定を受け、地方創生に向けた各種取組を一体的に推進しており、市と民間団体が協働で「定住人口の促進」や「交流人口の拡大」を目指す。
- 平成30年3月には、地方創生の取組等が評価され、国土交通省・内閣府が選定する「地方再生コンパクトシティのモデル都市」に県内で唯一選定。

■ 地域再生計画の概要

- <計画期間>
H28～H32
- <計画の目標>
「住んでみたいまち、訪れてみたいまち」の実現
コンパクトシティによるまちづくりの推進
- <地域再生を図るための事業内容>
① 街なか居住の促進 ② 経済基盤の強化
③ 新たな交流の創出 ④ 多様な担い手の連携・協働 ※任意計画として作成

■ 城下町高田の歴史・文化をいかした「街の再生」事業推進計画(H29.9作成)
街なか回遊観光を軸とした事業推進方策として、次の内容を取りまとめ

- ① 拠点エリアの整備構想
 - ・歴史・文化を楽しめる魅力的な「目的地」づくり
 - ・拠点エリア内外の「回遊性」を高める利便性の向上
 - ・景観形成の促進
- ② 市が所有する歴史的建造物の整備構想
 - ・旧今井染物屋・旧師団長官舎・高田小町・旧第四銀行・金津桶店における整備イメージ等



■ H30年度の主な取組

- ✓ 100年映画館のあるまち誘客・回遊強化推進事業
 - ✓ 百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業補助金
 - ✓ 歴史・文化資産活用促進事業
 - ✓ 師団長官舎管理運営費(保存活用調査)
 - ✓ [新規]街なか居住推進事業(空き町家等の活用促進)
 - ✓ [新規]城下町高田リノベーションまちづくり事業
 - ✓ [新規]城下町高田街なかサイン計画策定事業
 - ✓ [新規]100年映画館周辺交流広場整備事業 等
- 
- 旧今井染物屋
- 
- 旧師団長官舎

■ H29年度の主な取組と成果

<シェアハウス大町の整備>

- ✓ 事業内容:若者のまちなか居住を通じた地域活性化、空き家となった町家の市場流通・利活用方策の検討を目的としたモデル事業として、築100年を超える町家を学生用シェアハウスとして整備
- ✓ 成果:H29.9月に入居開始(H30.4月から満室) 等



外観



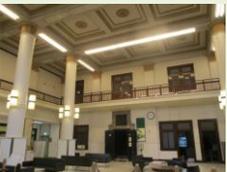
フリースペース・土間

<高田まちかど交流館の改修>

- ✓ 事業内容:旧第四銀行高田支店のホールの多目的利用のための改修
- ✓ 成果:来訪者の増加に向けた施設整備の完了 等



外観



ホール

<100年映画館を活用した誘客と回遊>

- ✓ 事業内容:広域誘客イベントや地域との交流・回遊を図るイベントの開催 等
- ✓ 成果:来館者数の増加傾向を維持



イベントの様子等



年度	来館者数
H27年度	10,426
H28年度	15,571
H29年度	14,141

<ビジネスタウン高田の推進>

- ✓ 事業内容:中心市街地における事業所誘致・創業等を促進するPR用パンフレットの作成等



<百年料亭の魅力をいかした誘客と回遊>

- ✓ 事業内容:全国の料亭と連携し、百年料亭の魅力をいかした誘客・回遊などを支援
- ✓ 成果:旅行商品造成による外国人観光客の誘客等

<景観形成活動>

- ✓ 事業内容:南本町三丁目における景観まちづくり活動(のれんづくり・情報誌発行等)への支援等



<高田の食のイベントの実施>

- ✓ 事業内容:仲町の屋間の賑わい創出に向けた食のイベントを支援
- ✓ 成果:3,343食販売(H29 2回分の合計)



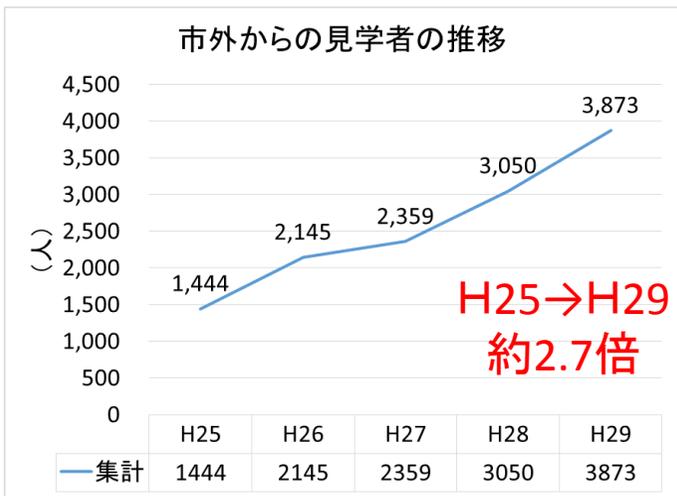
「城下町高田」における市所有歴史的建築物の来訪者調査報告書【概要版】

<目的>

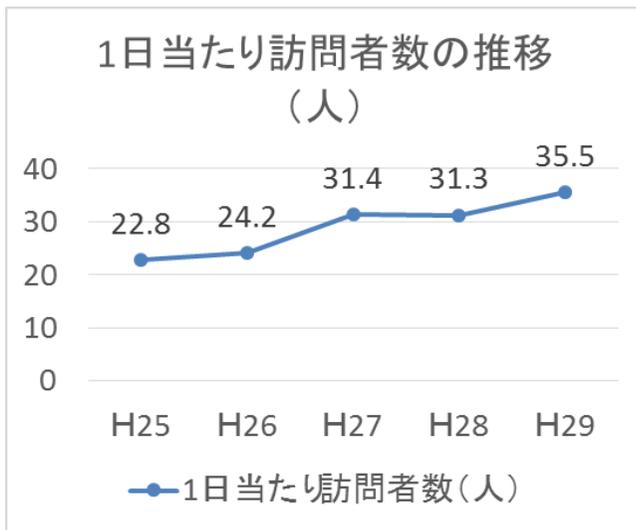
当調査は、城下町高田エリアにおいて経済活動を意識した戦略的な街なか回遊観光を検討するため、市が所有する歴史的建築物の日報等の来訪者情報を、データとして整理・分析することで現在のニーズを把握し、ターゲット観光客等を検討するための定量的な根拠を調査することを目的とする。

また、調査結果の公表により、民間による観光客をターゲットとした経済活動の誘発及び市民の機運の醸成を促進することを目的とする。

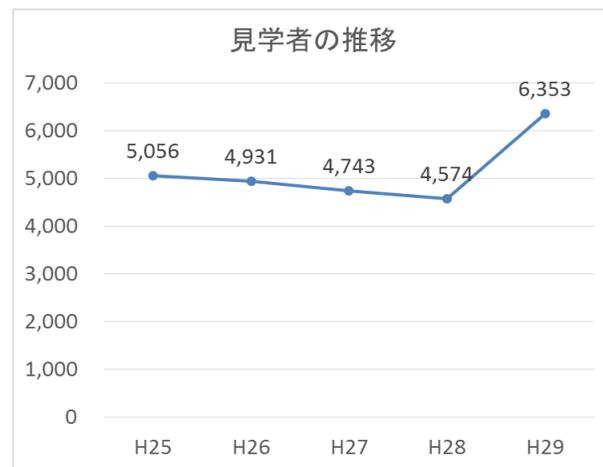
<高田小町市外からの見学者数>



<旧今井染物屋の1日当たり見学者数※2>



<旧師団長官舎の見学者数>



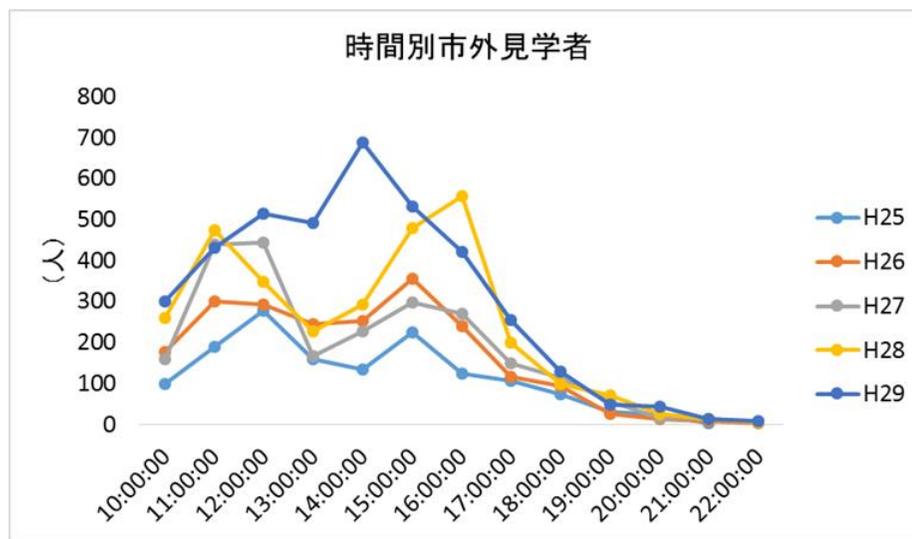
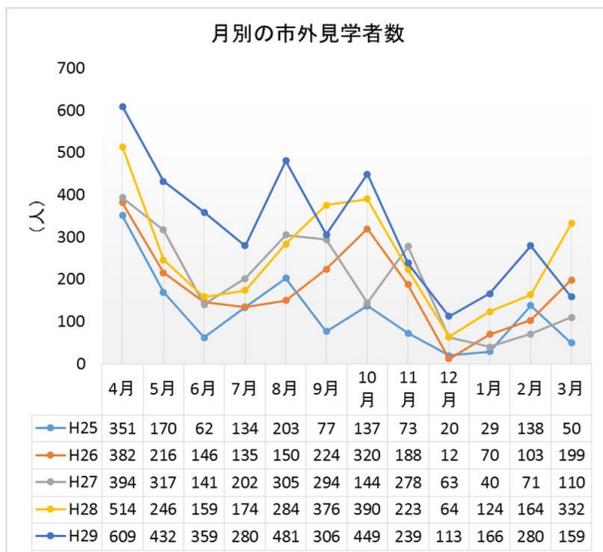
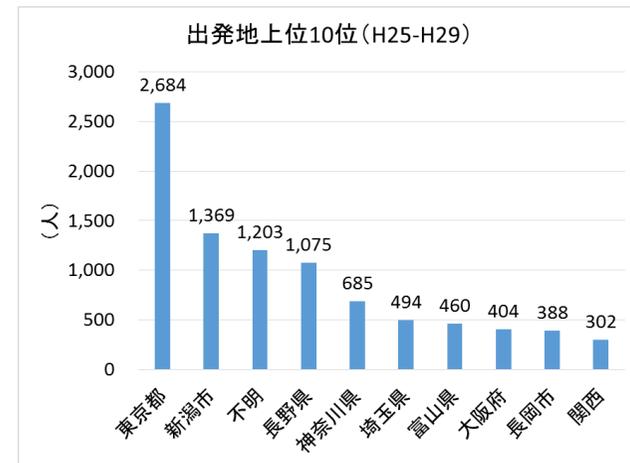
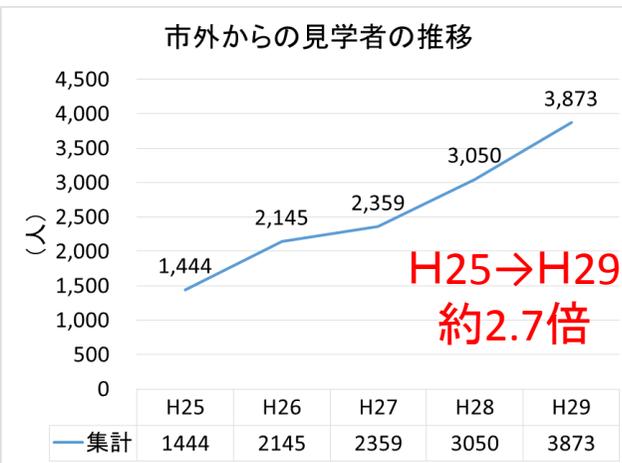
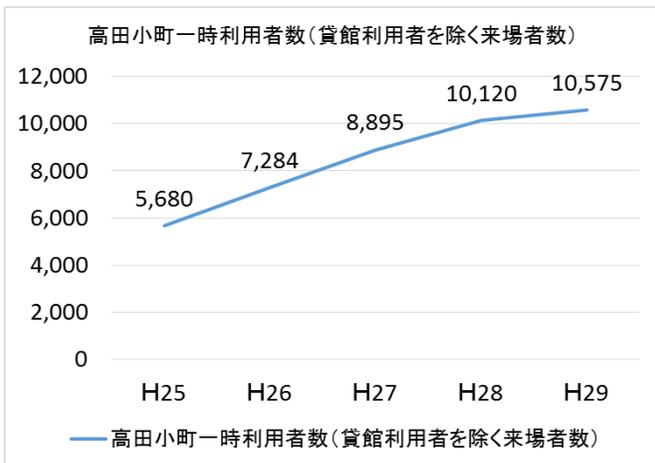
※町家公開イベント（町家三昧）期間中

※1 当調査は、管理人による聞き取り等通常業務の傍らで記録した日報等を基にしたデータを集計したもので、機械的に漏れなく全ての事実を集計したものではない。このため、当調査結果は、概ねの傾向を掴むための参考とし、活用にあたっては、これを踏まえたうえで利用されたい。

※2 4半期ごとに開催する町家公開イベント（町家三昧）期間中に実施した町家公開アンケートを基に算出。概ね年間50日程度。

高田小町の利用状況(高田小町来館者実績報告書)

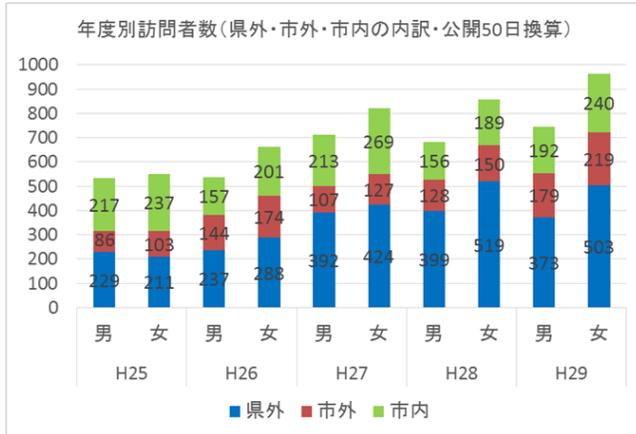
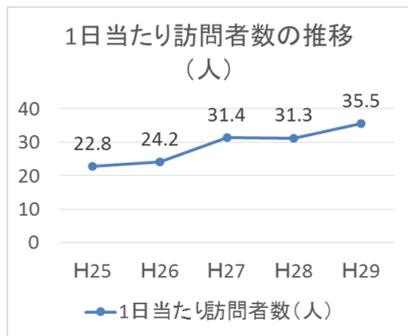
- 高田小町の市外見学者は増加の傾向。関東、新潟市、近県の見学者が多い。
- 4月、8月、10月に見学者が多い。時間帯は、11時前後、15時前後にピークがある傾向。



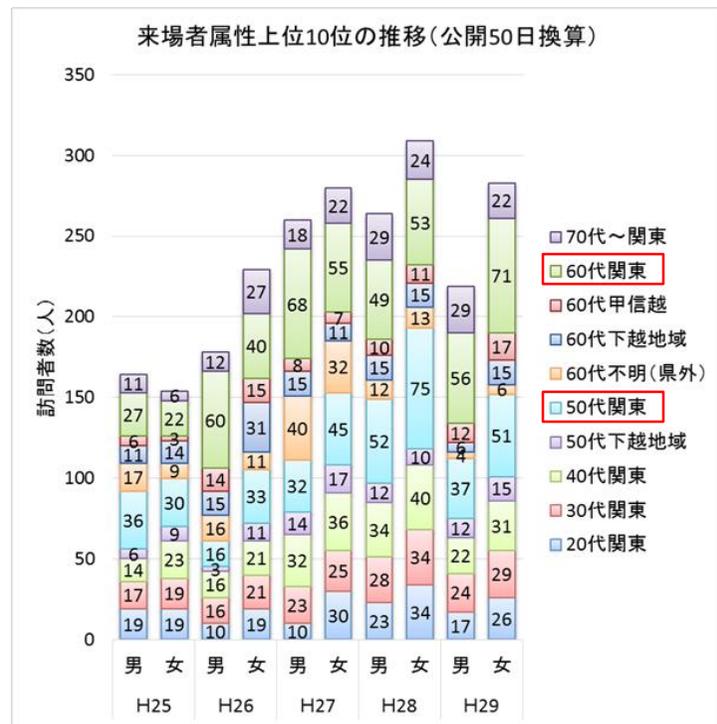
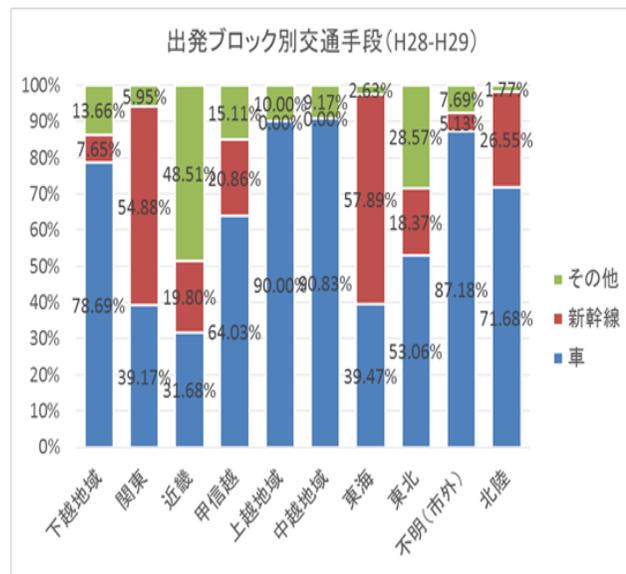
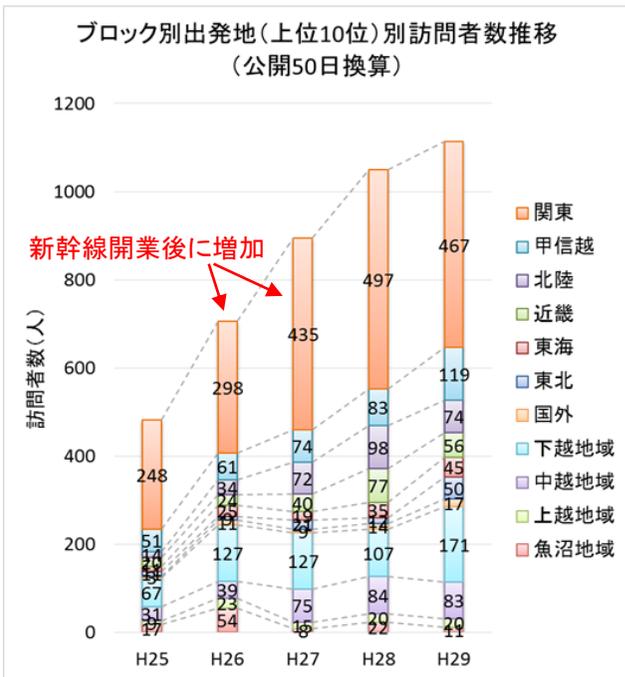
※当調査は、管理人による聞き取り等通常業務の傍らで記録した日報等を基にしたデータを集計したもので、機械的に漏れなく全ての事実を集計したものではない。このため、当調査結果は、概ねの傾向を掴むための参考とし、活用にあたっては、これを踏まえたうえで利用されたい。

旧今井染物屋の利用状況(町家公開アンケート)

- 旧今井染物屋見学者は増加の傾向。関東、下越の見学者が多い。
- 新幹線開業前後に、関東方面からの来場者が増加。開業後の関東見学者の交通手段は、新幹線利用が約半数を占める。
- 全体的に女性がやや多く、関東からの50～60代が最もよく訪れている。



※町家公開アンケートは、4半期ごとに開催する町家公開イベント(町家三昧)期間中に実施。概ね年間50日程度。



※当調査は、管理人による聞き取り等通常業務の傍らで記録した日報等を基にしたデータを集計したもので、機械的に漏れなく全ての事実を集計したものではない。このため、当調査結果は、概ねの傾向を掴むための参考とし、活用にあたっては、これを踏まえたうえで利用されたい。